

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201627		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム花丘		
所在地	高崎市南大類町1307-6		
自己評価作成日	平成25年4月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成25年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由に自分らしく生活できるよう理念にかかげ、食事担当を専門におき快食・快眠・快便で健康に過ごせるようにスタッフ全員で支援させて頂いています。施設の隣には果物畑があり蜜柑・柿・無花果などを収穫し、頂く事もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の希望や意向を把握するために、日常のケアの過程は勿論のこと、年1度の利用者への「聴き取りアンケート調査」を行い、一人ひとりの思いを叶えられるよう努力し、人格尊重の介護や自分らしく生きることを掲げた、理念の実現に向けた支援が行われている。災害対策においては緊急時に備えて、毎月の自主訓練により、体で覚えられよう全職員参加で実施されている。食材の備蓄も整っており、災害時に向け取り組んでいる。利用者が日々暮らす上で最も大切にしていることは、適正な食事摂取であると考え、調理担当職員3名を配置し、食事形態や栄養面に重点を置いたバランスの良い献立を作成するとともに、家庭的な器への盛り付けなど、細部にまで心配りがなされている。また、良好な排泄を促すべく手づくりの青汁を提供し、排便のコントロールに大きな効果が見られている。日々の良好な支援実現へ向け、会議や申し送りを通して統一したサービス提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継時に皆で唱和し確認し実践するよう心掛けています。	理念に、人格尊重の介護や自由に自分らしく生きることなどを掲げ、毎朝唱和をし、毎月の定例会議においても理念について話し合い統一したケアに繋げる意識を高めている。毎月6日には事業所内研修を持ち、外部で受けた研修の伝達を行い、理念についても話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の子供達による廃品回収に協力をしたり施設の行事に近所の子供達を誘ったり、中学校の課外授業の協力などで交流しています。	周囲が新しい住宅地で若い世帯が多い地域ではあるが、自治会に加入し回覧板が回ってくる。事業所で行う行事では、花火会など回覧板で「おしらせ」を出し、近所の人達が集まってにぎやかに行われる。また、中学生の課外授業であるヤルベンチャーの企画を受け入れ、交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議などに民生委員などに出席をして頂き、情報交換をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議内で提案された事や話し合われた事などを共有し各利用者の御家庭にもお便りとして送らせて頂いています。	2ヶ月に1回の会議には、自治会長初め民生委員などの参加があり、事業所からは経営者や施設長他3役の参加はあるが、職員は参加していない。また、家族は事業所で選んだ3家族に順次参加を依頼している。これまでは報告にとどまり、参加者からの提案や要望は出されていない。	参加メンバーを再考し、意見や要望が出しやすい環境を整えて、運営に反映されることを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症などの流行情報や注意などのパンフレットを頂いたり、介護相談員の訪問があったり、研修に参加するなどをして取り組んでいます。	市の担当者とは運営推進会議で、情報交換をしている。入居に関する相談にも対応して頂いている。また、ケアマネージャーが市に出向いて相談をしたり、感染症等に関するパンフレットを頂いたり、市主催の研修にも参加したりして、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという事を常に頭の中に入れ、日々の介助に取り組んでいます。	現在拘束を必要とする状態の方もなく、玄関の施錠もしていない。拘束については職員で話し合い常に意識するとともに、家族にも拘束のリスクについて説明をしている。常に見守ることで、行動の動線が見える支援を心がけているが、布団や靴に鈴をつけるなどの工夫をすることもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習や研修に参加し、折に触れ虐待にならないかを考え注意を払っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、そこで得た事を皆で共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明させて頂き、疑問点などもその都度対処し、内容変更などは速やかに書面や来所時に説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や推進会議などで提案された事や要望などは、全御家族へ文書で発送しています。	運営推進会議の内容は、家族に送付されている。利用者には、年1回ケアマネージャーによる、聞き取りのアンケート調査を実施するとともに、家族には、連絡ノートを利用し意見や要望を出せるよう配慮しているが、運営に繋がるようなものはこれまでに出不ない。	利用者・家族が運営に関する意見や要望を出しやすいような環境を整え、運営に反映できる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて行われますが、代表者の来所時にも疑問点・問題点などについて意見交換を致します。	月1回の職員会議には、毎回経営者の出席がありやさしさや言葉遣いについて20分程度の訓示を述べている。職員から出された思いや要望は即運営に反映されているとのことであるが、具体的に運営に繋がる事例は見受けられない。	個々の職員の意見や要望が出しやすい状況づくりと、意見等を集約出来るシステムづくりを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあらゆる研修を受けさせ、ケアの力量を向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会組織のネットワークの中で、相互訪問や勉強会に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人や御家族からの不安や要望などについて十分に話し合い、良いサービスやケアができるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのような生活を希望されているのか問題点や要望などを話し合うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族の不安や要望に今何が必要なのかを相談しながら見極め、サービス・ケアの内容に活かしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は自分達の家族と同じという思いで介助・見守り・支援をさせて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の様子などをお便りや写真などにして御家族の元へお知らせしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所して下さる方もありますし、受診に月1回付き添って下さったり、時には外食や墓参りなどに御家族と出かける事もあります。	家族の送迎で外食に出かけたり、たまに友人が訪ねて来ることがある。老人会との繋がりはあまりもたれることはなく、敬老会の日にお弁当が届く程度である。	事業所から働きかけを行い、能動的な馴染みの継続支援を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、身の回りの事を手伝ってくれたりしています。歩けない方でもホールへ誘い一緒にTVを見たり歌を歌ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に転居先へ訪問し様子を伺いに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にアンケート調査を行い、意向や希望を聞き支援に活かしています。意思表示が難しい人は御家族に聞いたりカンファレンスで話し合い把握に努めています。	年1回ケアマネージャーによる、聞き取りアンケート調査を実施し、思いや意向の把握に努めている。家族からは、特に入居時にホームでの生活をどうしたいかを聞いている。また、日々一人ひとりの表情や行動から、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表を基に、ご本人の生活歴や生活習慣を聞き、経過に応じたサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活内容が分かるようなチェック表が作っており、それを見ると水分・食事摂取量や排尿・排便・内服など現状把握ができるようになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議時にカンファレンスを行いケアプランを作成しています。状況に応じモニタリングし、変化があった時には見直しを行っています。	モニタリング用紙に、全職員が日常のケアでの気づきを記入し、アセスメントの後、ケア計画を作成し、カンファレンスに繋げている。全職員参加のカンファレンスで修正や補足が行われ、計画を完成させている。作成された計画には、統一したケア実現に向け、全員が計画書に捺印をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノート等を活用し、職員全員で情報を共有し、見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望や外出希望者など職員同行で対応できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	幾つかの病院やクリニックと提携しており、その時の病状に対応した医療が受けられるよう支援しています。	月1回、協力医の往診を受けている。また、家族の送迎でかかりつけ医の受診に出かける利用者もいる。家族対応時にはサマリーを持参し、日常の利用者の状況をかかりつけ医に連絡するなど、安心できる良好な関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の往診や受診に日常の連絡を取り、医師の指示を受けています。変化があった時も直ぐに対応するよう心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においては担当看護師やケースワーカーなどと連絡を取ったり、出向いて情報交換や相談をし、利用者が安心して治療を受けられるようしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	皆様だいぶ年を重ねてきていますので、重度化した場合に関し、ご家族との話し合いを行っています。	入居時に、看取りの説明をしている。内容としては看取りはしないこと・ぎりぎりの状態までは看るものの、悪化した場合には医療機関へ入院となることなどを説明している。家族の意向に添いそのかぎりではないことも付け加えているが、これまでに事業所での看取りはしていない。	看取りを希望される家族も考えられることから、今後の課題として、看取り体制等について、関係者と検討されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを提示し講習や研修などを定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主的な避難訓練や消防署指導のもとでの消火訓練も定期的に行っています。スプリンクラーや自動通報装置・警報装置などの設備も完備しています。また、地域の方々にも協力をお願いしています。	消防署指導の訓練の他に、体で避難行動を覚える為に毎月避難訓練を自主的に行っている。職員は、火災発生の場合と避難口・避難場所との関連を把握している。近隣住民への声かけをしているが、訓練への参加は得られていない。	自治会や推進会議で検討し、災害時の協力が得られるよう努力されることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った対応と言葉かけに心掛けています。	理念にも掲げている人格の尊重を大切にした対応がなされ、難聴の方にはケア内容のわかるカードや筆談で、コミュニケーションを図っている。事業所では、優しさと言葉遣いを格別大切なものとして捉えており、利用者が平穏な毎日が送れるための支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人なりの行動を見守り声かけをして介助させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室・食堂・ホールといつでも自分のいたい場所でくつろげるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はもちろん、美容師による出張カット・整髪などを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんの摂取しやすい状態で季節の旬の食材を使って職員と一緒に楽しく頂いています。行事食などもあります。	「食べることは生きがいである」という考えから、食事には特に力を注いでいる。調理担当職員3名を専任とし、季節を楽しみ、見て楽しい陶器の器にきれいに盛り付けし、職員と一緒にテーブルで食事をしている。献立は皆で考え、時にはお餅つきや団子作りをして楽しんでいる。また、便秘対策のため手作り青汁を提供し、排便のコントロールにその結果が表れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食から刻み・ミキサー食、お粥などその人それぞれに食べやすい状態で摂取できるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝起床1番より毎食後きちんと口腔ケアをしています。歯ブラシや口腔ブラシなどを使い分けています。夜間は義歯を預かり消毒をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを職員全員が把握し、その状態に沿った声かけや介助をしています。	チェック表に時間を記入し、排便・排尿・量を毎回チェックすることで排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。事業所で提供している「青汁」の効果があり、排泄に向けた自立の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、青菜ミルクの摂取により調整し便秘になる事なく皆さん出ています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午前中と決まっていますが、外出や受診・拒否のある方などもあり、希望の日に入浴できるようにしています。	毎日午前中に3名づつの入浴とし、1人が週2回の入浴を楽しんでいる。受診や拒否で入浴できない場合でも、希望する日に入るようにしている。季節の菖蒲湯や柚子湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のないように昼はきちんと離床し皆と過ごして頂き、午睡の時間を作ったりしていますが、いつでも休息はできるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の内容について主治医に相談や確認をし、症状の変化などに注意を払い、内服できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどを手伝ってもらったり、散歩や果物の収穫に出かけたり、レクリエーションで運動や歌・ぬり絵などをし気分転換をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の花見ドライブや果物狩りに行ったり、ボランティアの方と一緒に散歩に出たり、時にはご家族と外食や墓参りなどに出かけるなど色々しています。	事業所は新興住宅地にあって、麦畑等の緑も多い環境のなか、散歩を楽しんでいる。散歩には、地域のボランティアと一緒に付き添う場合もある。家族対応の外出や、季節ごとのお花見等、外気に触れ、季節を感じてもらう支援が機会あるごとに実施されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かっていません。理解できる方で希望があればお金を預かり出納帳をつけるなどのお手伝いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には携帯電話を持っている方もいて、ご家族と話をされています。固定電話の使用もできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に沿ったカレンダーを皆で作り、年中行事などを取り入れています。全部屋日当たりも良く畑では四季折々の果物や花などを育て、楽しめるようになっています。	ホールは明るく採光も良く、食卓スペースとフラットに繋がったスペースにあるソファ等でテレビを見るなど、思い思いに過ごしている。季節の花を飾り自分で色塗りしたカレンダーが貼られるなど、ゆったりとした居心地のいい空間づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はもちろんホールでTVを見たり食堂のテーブルを使いパズルや将棋・トランプなどを自由にできるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人に使い慣れた物を持って来て頂くようお話しています。	各居室入口には、それぞれに暖簾が下げられている。居室の窓からは事業所の広いフルーツ畑が眺められ、季節の果物の収穫も楽しみの一つとなっている。箆箆や衣装箱などが置かれ、整理整頓された居室の壁には、家族との関係を大切に考え、家族の写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂・トイレなど大きな文字で表示したり、家具などの配置なども移動しやすく使いやすいよう考えています。		